



身に纏う  
平安文様の見本帖。

国宝九体阿弥陀像が鎮座する、浄瑠璃寺の本堂。入口左手、国宝四天王像の持国天にご注目ください。腹部下に見られる切金文様、1〜2mmに金箔を細く切って貼り合わせた装飾は、現代の人間国宝の切金師も「人間業とは思えない」と驚く、超絶技巧の美です。その隣に描かれた、宝相華を口にくわえたユーモラスな獅子の姿も目を引きます。他にも全身には、平安時代の文様の見本帖とも言える多彩な文様が施されています。薄暗い本堂の中でも際立つ、千年前の匠の技を目を凝らしてご覧ください。

map 1

浄瑠璃寺



pilgrimage

京都府の最南端に位置し、京都と奈良を結ぶまち、木津川市。古来より、聖武天皇による恭仁京造営や行基の活躍など、数々の歴史の舞台になり、日本仏教の聖地として知られています。国宝や重要文化財の数は、府下では京都市に次いで二番目に多く、貴重な寺院や仏像が市内各所に見られます。千年の時を経た今もお、多くの人々の信仰を集め、祈り継がれているのです。仏像の前に座り、静かに手を合わせてその姿を見上げる時、心の奥底に届くような眼差しと対面することでしょう。豊かな自然の中にひっそりと佇む古寺を巡りながら、そこできしか出会えない祈りのかたちを、五感で体験してみませんか。

木津川  
古寺巡礼帖

pilgrimage



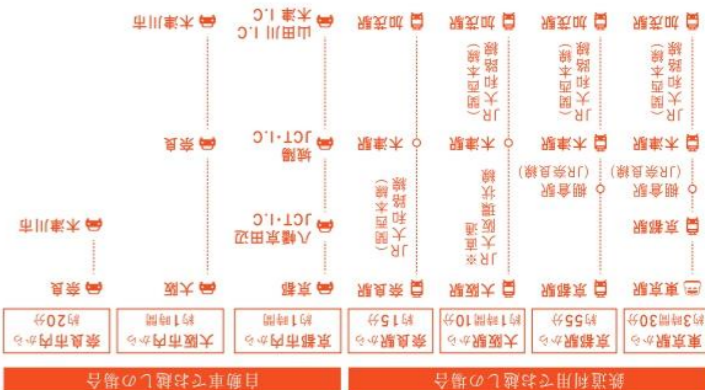
お茶の京都

お問合せ  
木津川市マチモイテ部  
観光商工課  
TEL:0774-75-1216  
kanko@city.kizugawa.lg.jp

企画・協力  
お茶の京都DMO  
一般社団法人京都山城地域振興社  
TEL:0774-25-3239  
dmo@ochanokyo.jp



「また、新しいのや  
ちこは、特  
情の扱  
返水  
手、ま  
運



木津川市へのアクセス

鉄道利用でお越しの場合

自動車でお越しの場合

三重塔の番人は  
あまのじゃくでした。

三重塔の四隅の垂木に見える像、隅鬼。建立以来約六百年もの間、塔を守り続けています。隅鬼はあまのじゃくとも称され、人に逆らって反発する気質から、重力で下方に向かう屋根を支えているとする説も。一体一体手で彫られた隅鬼は全部で十二体。表情豊かで愛嬌のあるキャラクターは、土鈴やキーホルダーなどのお守りとしても人気です。本堂内では、一九四三年の大修理で修理された隅鬼を拝むこともできます。ぜひ、あなた好みの隅鬼と出会ってください。

map 2

岩船寺



map 3

蟹満寺



こちらの後ろ姿は、蟹満寺本尊の国宝釈迦如来坐像。飛鳥時代以来、千三百年もの間、天災などの苦難を乗り越えて、創建時の台座からこの地を動くことなく、人々の苦悩を救い導いてきました。鑄造された銅の厚みは、2〜3mmの薄さ。身体を覆う薄衣の美しさが、当時の高い技術を表します。境内受付でお願いすれば、すぐ近くから拝見可能だとか。左頬に見られる、全身が金箔で覆われていた名残りも発見できそうです。さあ、至近距離で国宝を拝める蟹満寺へ。



千三百年、  
動かぬ  
証拠。

写真提供：文化庁

map 4

神童寺



古来より、修験道の霊地だった神童寺。縁起によると、二人の神童の助力を得て、役行者が本尊蔵王権現像を彫ったとされます。現在の

本尊は、室町時代の作。炎髪を逆立て牙を出し、口を開けて三目で睨む忿怒相(ふんぬそう)は、悪を降伏させ威圧するために。右手は魔を打ち砕く三鉗杵を持ち、右足と合わせて角度を水平に揃えるなど、動きの中にもバランスを感じる姿です。まさに全身全霊、像高270cmの大身で表した悪魔降伏、除災招福のポーズなのです。

map 5

海住山寺



外観も内観も  
重ね重ね美しい。

海住山寺中興の祖、解脱上人貞慶の教えである釈迦信仰を具現化した、国宝五重塔。瀟洒な美しさをたたえる塔の初重の下には、特徴的な「裳階(もこし)」という屋根を持ちます。内部には四つの天柱が立ち、厨子の中に本尊の仏舍利が祀られています。その内側の牡丹唐草文や宝相華唐草文に見られる「縹緗彩色(うんげんざいしき)」。その色の濃淡は、約八〇〇年の時を経た今も鮮やかに残っています。塔内部の装飾は、年に一度、秋の特別公開にてご覧ください。

像高270cm、  
除災招福のポーズ。



写真提供：株式会社飛鳥園